

グローバル三重教育プラン

－ 三重から世界へ、その先へ －

Global "MI Education" Plan

平成26年 2月

三重県・三重県教育委員会

目 次

1	「グローバル三重教育プラン」の策定について	1
2	三重県における取組の現状と課題	2
(1)	本県を取り巻く状況	2
(2)	3つの力についての現状と課題	2
(ア)	主として「主体性」及び「共育力」育成について	2
(イ)	主として「語学力」育成について	3
3	三重県における取組の方向性と特徴	4
(1)	「主体性」に係る取組 (自ら考え判断し主体的に行動する力)	4
(2)	「共育力」に係る取組 (共に成長しながら新しい社会を創造する力)	4
(3)	「語学力」に係る取組 (外国語で積極的にコミュニケーションを図る力)	5
4	具体的施策	6
5	「グローバル三重教育プラン」構成取組一覧表(資料)	

1 「グローバル三重教育プラン」の策定について

社会、経済等のあらゆる面においてグローバル化が急速に進展する中、国際的な舞台で活躍し積極的に発信する力が求められるとともに、国内・県内であっても、グローバルな視野（地球的視野）に立って自らの考えや意見を適切に伝え、日本人・三重県人としてのアイデンティティーを持ちながら、異なる文化・伝統に立脚する人々と共生できる能力や態度を身につけることが求められる。

このことを踏まえると、グローバル社会において特に求められる力としては、大きく、以下の3点に整理できる。

① 「主体性」 (*Independence*)

超高齢社会をはじめ、我が国が「課題先進国」としてさまざまな課題に直面する中、私たち一人ひとりが、高い志を持ち、さまざまな課題に対して自ら考え挑戦し、立ちはだかる壁を乗り越え、未来を切り拓いていく力。

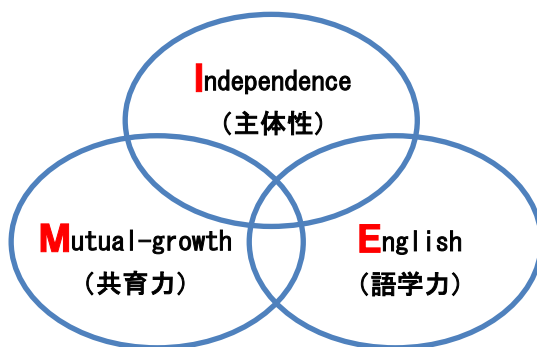
② 「^{きょういく}共育力」 (*Mutual-growth*)

私たち一人ひとりが、郷土への愛着と誇りを持ちながら、それぞれのアイデンティティーを確立・確認し、それを心の土壌として、異なる文化・伝統に立脚する人々とも協働しながら共に成長し、未来を創造していく力。

③ 「語学力」 (*English*)

グローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存も含め、持続可能な発展に向けた相互理解や国際協力等が求められる中、語学力、とりわけ国際的共通語となっている「英語」によりコミュニケーションを図り行動する力。

「グローバル三重教育プランー三重から世界へ、その先へー」は、三重県として、グローバル社会において求められる上記の3つの力を重視するとともに、三重県民としてこれらの力をバランスよく身につけ、生涯にわたりこれらの力を高めていくための具体的な方向性を示し、取組を進めることにより、三重県が国内外で信頼され「選ばれる地域」となることを目指すものである。



2 三重県における取組の現状と課題

(1) 本県を取り巻く状況

グローバル化の視点から本県の特徴を見てみると、まず、県内総人口に占める外国人の割合が全国的に見ても高いことから、子どもから社会人に至る幅広い世代で、異なる文化・伝統に触れる機会が得られやすい状況にあり、NPO、経済団体、行政等のさまざまな主体が連携して、多文化共生社会づくりに取り組む必要がある。

また、産業面では、人口減少社会の到来、国内需要の減退等により、国内市場の大幅な伸びは今後期待できない中、県内製造業の海外展開の取組は、他県に比べ全般的に低くなっている。三重県経済の強じんでも多様な産業構造の構築には、国際展開が喫緊の課題となっており、グローバル人材の育成が必要不可欠である。

観光面では、平成25年の神宮式年遷宮、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年により、本県への注目が高まる好機を迎える中、世界に誇る観光資源である海女や忍者を含め、本県の魅力を国内外に発信していく必要がある。

教育面では、国において、初等中等教育段階からグローバル人材を育成するため、英語教育の抜本的な強化に向けて取組が進められているところである。グローバル化が加速する社会の中にあっては、豊かな語学力・コミュニケーション力や異文化体験を身につけ、広い視野と挑戦する意欲を持って、それぞれの地域、さらには国際的な舞台で活躍できる人づくりを継続的に行っていくことが急務である。

(2) 3つの力についての現状と課題

(ア) 主として「主体性」及び「共育力」育成について

- 海外での事業展開をめざす経営者や次世代経営者にとって、グローバルビジネスに必要なスキル・知識等が求められており、より実践的に学ぶ機会が必要である。また、国際競争を勝ち抜くために必要となる新たな技術や専門的知識等を身につけた人材の育成を推進する必要がある。
- 農林水産物等の輸出入の拡大や諸外国との人材交流の進展など、グローバル化に対応できる農林水産事業者の育成に取り組むとともに、農林水産業への就労希望者等に対して、海外展開も視野に入れた知識や技能の習得を進めていく必要がある。
- 子どもたちに自立する力と共に生きる力を育成することを目指して、「みえの学力向上県民運動」（平成24年度～平成27年度）がスタートしているが、グローバル社会で求められる力を育成する観点からの取組を具体化していく必要がある。特に「将来の夢や目標をもち、失敗をおそれず挑戦する子ども」を育てていくため、チャレンジ精神や「志」の育成を図るとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な力の育成に取り組んでいく必要がある。

- 目的意識の向上や郷土に対する誇り・愛情等の涵養をめざし、体系的なキャリア教育や、郷土教育・道徳教育のための教材づくり等を進めている。今後は、従来の取組に加え、課題解決力や発信力を含むコミュニケーション力の育成をより進めていく必要があるとともに、これを基礎とした異文化理解の促進、さらには、将来を担う若者同士の絆と向上心を高めていく必要がある。
- 多文化共生社会の実現や国際貢献の推進者として、多様な主体を対象に国際理解研修や啓発事業を実施している。今後は、さらに異文化の理解、多文化共生を促進するため、他国の文化等の情報発信や、多様な生活スタイルや考え方を体験的に学習できる場づくりに取り組む必要がある。

(イ) 主として「語学力」育成について

- 小学校では外国語活動が実施されているが、指導内容や指導方法が十分に確立されているわけではない。早い段階からの外国語教育の充実が喫緊の課題となる中、小学校における外国語活動の指導方策の充実に向けた研究等を進める必要がある。
- 英語学習で養うべき「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの領域のうち、中学校では、「聞くこと」「話すこと」の活動が以前より活発に行われている傾向がある一方、高等学校では、「読むこと」「書くこと」が中心の学習となっている傾向がある。読んだことをもとに書く、聞いたことをもとに話すなど、4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に学習するとともに、小学校・中学校・高等学校の系統性も意識した英語学習の方策の構築や、教員の英語運用力・指導の専門性の向上を図る必要がある。
- 中学校においては、英語の必要性を感じているものの、学年が進むにつれて英語が好きな生徒が減少する傾向が見られることから、ALT*やICT機器などを積極的に活用し、日常的に英語にふれる機会を増やすなど、授業時間外も含めた英語の使用環境を創出・拡大する必要がある。

特に高等学校においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る中で、職業系専門学科も含めて、英語力向上に向けた取組を進める必要がある。

※ ALT (Assistant Language Teacher) とは、外国語指導助手のことで、学校または教育委員会に配属され、外国語授業の補助を行う。

3 三重県における取組の方向性と特徴

本プランは、計画期間を3年（平成26年度から平成28年度）とし、グローバル社会で求められる3つの力に対応した取組を重点的に展開していく。

本県では、社会、経済等のグローバル化に対応するため、既に「みえ産業振興戦略」や「みえ国際展開に関する基本方針」等に基づいた取組が進められているところである。

そこで、本プランでは、特に、子どもたちが将来自立した社会人となるための基盤づくりとなる義務教育及び後期中等教育（小学校～高等学校）における取組を重視し、実施にあたっては、児童生徒の成長や発達段階に留意して取組を進めることとする。

また、学校と地域住民及び企業等との連携協力、異年齢交流を通じた人間的成長の促進、発信力の育成等を意識し、三重と世界、そして未来をつなぐ人づくりを進めていくこととする。

（1）「主体性」に係る取組（自ら考え判断し主体的に行動する力）

本県の現状と課題を踏まえ、「主体性」についての取組の柱として、次の施策を展開していく。

- ① チャレンジ精神・目的意識の向上
- ② 「志」の育成（特に、持続可能な社会づくりに貢献する意識と行動力）
- ③ 課題解決力の向上
- ④ 専門的知識・技術の習得

（2）「共育力」に係る取組（共に成長しながら新しい社会を創造する力）

本県の現状と課題を踏まえ、「共育力」についての取組の柱として、次の施策を展開していく。

- ① 発信型の郷土教育（日本人・三重県人としてのアイデンティティ）
- ② 異文化理解・多文化共生の促進
- ③ 将来を担う若者同士のつながり
- ④ コミュニケーション力の向上

目標項目	現状値（25年度）	目標値（28年度）
「将来の夢や希望を持ち、 失敗をおそれず挑戦する」 割合（公立学校）	高校生 70.4%	高校生 74.0%以上
	中学生 70.5%	中学生 74.0%以上
	小学生 80.8%	小学生 87.0%以上

目標項目	現状値（24年度）	目標値（28年度）
海外留学（短期・長期を含む）を実施した県立高等学校数（全58校）	3校（長期のみ）	58校
教材「三重の文化」を活用した公立中学校の割合	61.9%	100%

（3）「語学力」に係る取組（外国語で積極的にコミュニケーションを図る力）

本県の現状と課題を踏まえ、「語学力」についての取組の柱として、次の施策を展開していく。

- ① 英語指導モデルの構築（小学校からの英語教育の充実）
- ② 教員の英語運用力・専門性の向上
- ③ 英語使用環境の創出・拡大
- ④ 英語人口の裾野拡大

目標項目	現状値（24年度）	目標値（28年度）
卒業段階で英検準2級または2級以上相当の英語力を習得した高校生の割合（県立高等学校）	29.8%	45.0%以上
卒業段階で英検3級以上相当の英語力を取得した中学生の割合（公立中学校）	26.1%	45.0%以上
英語の学習が「好き」・「どちらかといえば好き」と答えた小学生の割合（公立小学校）	74.4% (25年度)	80.0%以上
英検準1級以上相当の英語力を有する英語教員の割合（公立学校）	中学校 29.3%	中学校 45.0%以上
	高等学校 59.2%	高等学校 72.0%以上

4 具体的施策 ^(注)

それぞれの取組の柱において重点的に取り組む施策は、以下のとおりである。

(1) 「主体性」に係る取組（自ら考え判断し主体的に行動する力）

【取組の柱①】 チャレンジ精神・目的意識の向上

平成24年度からスタートしている「みえの学力向上県民運動」の取組を通じて、主体的に学び行動する意欲を県民総参加で子どもたちに育んでいくとともに、「ようこそ先輩」「しごと密着体験」等のキャリア教育の実践を通じて、子どもたちの目的意識等の醸成に引き続き取り組むほか、新たに以下の施策を推進する。

⊕ 経営人材育成ネットワーク支援【対象：社】

次世代経営者を主たる対象に、高等教育機関等と連携し、時代認識力や世界潮流を読み解く力といったグローバルな視点を取り入れつつ、力強い中小企業経営者を核とした業種を超えたネットワークを構築する場づくりに取り組む。

（ネットワーク構築等に向けたビジネス研究・交流会の実施、実践的な講義・ディスカッション等の実施）

⊕ 専門高校生による小中学生体験チャレンジ講座【対象：小中高】

職業系専門学科の高校生が小中学生向けの体験メニューを提案し、当該メニューを通じた高校生と小中学生との異年齢交流・体験活動などを通じて、チャレンジ精神を育むとともに、子どもたちの自信や目的意識を育む。

^{注)} 本プランでは、個別の施策（⊕）を、関わりの深い取組の柱の下に位置づけているが、施策内容によっては、複数の取組の柱にも関わるものであることに留意して、施策を進めていく。また、各施策の【対象】欄における「小」「中」「高」「大」「社」とは、それぞれ「小学生」「中学生」「高校生」「大学生」「社会人」を指すものとする。

【取組の柱②】 「志」の育成（特に、持続可能な社会づくりに貢献する意識と行動力）

持続可能な社会づくりに貢献する意識と行動力が強く求められており、こうした「志」の育成に向けて、新たに以下の施策を推進する。

④ スーパーグローバルハイスクール（SGH）【対象：高】

グローバルリーダーの育成を目指している高等学校において、「三重からグローバルイノベーション」をキーワードに、社会課題についての討議や課題設定型学習、海外短期派遣等を通じて、人間力や英語力を伸ばし、グローバル化社会で主体的に活躍できる人づくりを進める。

④ 高校生の留学の促進【対象：高】

県内の高校生の海外留学について、長期留学とともに短期留学の資金を一部支援することをおして、実践的な英語の使用機会を創出するとともに、「世界の中の自分」を意識させ、自ら行動できる力を育成する。

④ 中学生からの提案・発信【対象：中】

知事が投げかけるいじめ等の課題解決に向けて、中学生（各校生徒会単位）が実践したいと考える提案を広く募集し、優秀な取組に支援をしていくを通じ、社会課題に取り組む力と、子どもたちが自分たちの手で解決していく土壌づくりを行う。

【取組の柱③】 課題解決力の向上

各小・中・高等学校において、課題解決力の育成を意識した授業展開等を進めるほか、新たに以下の施策を推進する。

④ ICTを活用した創造的な学びの実践【対象：高】

タブレットパソコンの活用による協働学習や双方向型の授業等、子どもたちの課題解決力やコミュニケーション力の向上につながる創造的な学びの実践を通じ、高等学校におけるICTを活用した新たな学びの手法を構築する。

【取組の柱④】専門的知識・技術の習得

高等学校においては、学校と企業の連携による日本版デュアルシステム[※]等を引き続き推進するとともに、社会人については、海外研修などを通じて、農林漁業をはじめとする職業人の育成に引き続き取り組むほか、以下の施策を推進する。

※ 日本版デュアルシステムとは、「働きながら学ぶ、学びながら働く」ことにより若者を一人前の職業人に育てる職業訓練システムで、企業における実習と学校における座学を並行的に実施するものである。

④ 農林水産業現場での大学生等の就労体験の促進【対象：大】

輸出など海外展開の取組を進めている県内の先駆的な農林水産事業者において、インターンシップ等の長期就労体験システムを導入することにより、大学生等における農林水産業への就労に向けた意欲の向上と知識・技能の習得を図るとともに、海外に目を向け、積極的にチャレンジしていける人材の育成につなげる。

④ みえスーパーサイエンスハイスクール（M i e S S H）【対象：高】

理数科等を設置している高等学校において、大学等と連携した講習会やセミナー等の実施により課題研究の推進等の先進的な理数教育を推進するとともに、小中高の理数教育モデルを構築し、社会に貢献する志を持つ未来のサイエンスリーダーを育成する。

④ みえスーパープロフェッショナルハイスクール（M i e S P H）【対象：高】

職業系専門学科の高等学校において、専門性や技術力の向上、高度な資格取得、創造的なものづくり等の実践研究に取り組み、また、学科間連携の下で職業教育を充実していくことを通じ、確かな知識・技術を身につけるプロフェッショナルを育成する。

(2) 「共育力」に係る取組（共に成長しながら新しい社会を創造する力）

【取組の柱①】発信型の郷土教育（日本人・三重県人としてのアイデンティティー）

郷土教育と道徳教育を一体化した教材（「三重県心のノート」）等の活用を進めるとともに、日本人・三重県人としての自覚と誇りをもって、世界に発信できる力の育成を目指し、新たに以下の施策を推進する。

④「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」【対象：中】

教材「三重の文化」「三重県心のノート」等を題材にした英語（1枚紙）によるコンテストを開催することを通じて、中学生が郷土三重についての理解を深め、積極的に対外的に発信できる力を育成する。

【取組の柱②】異文化理解・多文化共生の促進

外国人児童生徒の在籍数が多いという本県の特長を生かし、NPO等の関係機関との連携による多文化共生の啓発や、各学校における国際理解・多文化共生教育を一層推進するとともに、引き続き、三重県内の外国人留学生等への奨学金支給を行う。

これらの取組に加え、以下の施策を推進する。

④ 外国人の多い職場との交流の促進【対象：高】

外国人の多い職場（企業）へのインターンシップや外国人技術者の学校への派遣を促進すること等を通じ、企業のグローバル展開を肌で感じる機会を与え、「働く」こととの関わりにおける多文化共生の重要性についての理解を深める。

【取組の柱③】 将来を担う若者同士のつながり

各学校において異年齢交流を進めるほか、新たに以下の施策を推進する。

④ みえ未来人(みらいびと)育成塾【対象：高大】

高校生及び大学生を対象に、広くテーマを設定し、企業人や社会起業家等の講義、留学生を交えたディスカッションなどを行う。例えば、マイケル・サンデル教授の「ハーバード白熱教室」※などを参考として、社会問題や地域課題、哲学等をテーマとした講座を実施し、将来の三重を支える「志」を育成するとともに、学校の枠を超えた若者のネットワークを構築する。

※ 「ハーバード白熱教室」は、ハーバード大学教授マイケル・サンデル氏による政治哲学に関する講義で、平成 22 年にNHK教育テレビで放送された。例題や事例を学生に提示し、議論に参加させるスタイルをとる。

【取組の柱④】 コミュニケーション力の向上

各学校において、各教科の学習や学級経営において子どもたち同士のコミュニケーション力の育成を意識した授業展開等を進めるほか、ICTの積極的な活用も含め、子どもたちのコミュニケーション力向上を目指した取組を進めていく。

あわせて、新たに以下の施策を推進する。

④ 効果的な教材を活用した教育活動の実施【対象：小中高】

教職員研修や授業において、民間による効果的な教材（知的玩具等）や手法を取り入れ、自由な発想力・創造性を高めながら、子どもたちの人間関係形成能力、ソーシャルスキルの向上につなげる。

(3) 「語学力」に係る取組（外国語で積極的にコミュニケーションを図る力）

【取組の柱①】英語指導モデルの構築（小学校からの英語教育の充実）

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4領域の技能を子どもたちがバランス良く身につけられる英語教育を系統的に実施するため、以下の施策を推進する。

④ 高等学校英語教育モデルの構築【対象：高】

CAN-DOリスト※（各学年等の目標を設定）の活用も含め、高等学校における効果的な英語指導法・教材の研究開発を進め、小・中学校との接続も意識した高等学校における英語教育のモデルを構築するとともに（みえセルハイ：MieSELHi）、職業系専門学科も含め、高等学校における基礎英語力向上のための指導法や教材開発を進める。

※ CAN-DOリストとは、学習到達目標を「～することができる」という能力記述文で示したもので、生徒の英語力を把握し、授業の改善に活用するものである。

④ ネットコンテンツの授業活用【対象：中高】

英語によるプレゼンテーションなど、インターネット上のコンテンツを学校における授業等で活用実践することを支援し、実践的な英語力の向上につなげる。

④ 小中学校英語教育モデルの構築【対象：小中】

フォニックス（Phonics）※を取り入れつつ、ALTを活用した小学校における発達段階に応じた英語教育の研究に着手し、中学校における英語教育との連続性も意識した小中学校における英語指導モデルを構築する。

※ フォニックス（Phonics）とは、英語の発音と綴りの関係を表すルールを学ぶ学習法のこと、もともとは英語圏の子どもたちに読み書きを教えるために開発されたものである。

【取組の柱②】教員の英語運用力・専門性の向上

中学校及び高等学校の英語科教員採用における英語運用力の加点など、教員採用における工夫改善を進めるほか、新たに以下の施策を推進する。

④ 中学校・高等学校における英語教育指導体制の充実【対象：中高】

中学校及び高等学校の英語科教員について、一部はALTとの合同により、英語指導力及び英語運用力向上のための悉皆研修を集中的に実施することで、ALTの効果的な活用も含めた実践的な英語教育を実現する。

④ 小学校における英語教育指導体制の充実【対象：小】

全小学校において英語教育（外国語活動）の実施・推進を担う英語教育コーディネーターを指名するとともに、英語教育コーディネーター対象の集中研修を実施し、小学校における英語教育指導体制を確立する。

【取組の柱③】英語使用環境の創出・拡大

各学校における英語キャンプの取組やインターネットを通じた海外との交流を進めるとともに、以下の施策を推進する。

④ 外国人住民・留学生等と三重の子どもたちとの教育交流【対象：小中高大社】

大学と協力し、県内の高等学校等が実施するサマーキャンプへ留学生等を派遣するほか、協力いただく外国人住民及び留学生等を募集し、「英語キャンプ」の場などを通じて、三重の子どもたちと交流することで、子どもたちの英語コミュニケーション力の向上を図るとともに、外国人住民等による地域社会への参画を促進する。

④ 英語キャンプの実施【対象：小中高】

高校生を対象に実施してきた「英語キャンプ」を小中学生の参加や、保護者・留学生等の一部参加も得ながら実施することにより、実践的な英語使用環境の創出と異年齢交流による人間的成長を促進する。

キャンプでは、発達段階に応じた英語活動を取り入れ、コミュニケーション力、創造力やチームワーク力などを育成する。

【取組の柱④】英語人口の裾野拡大

英語人口の裾野拡大に向けて、各学校においては以下の施策を新たに推進する。

④ 英語インセンティブ拡大プログラム【対象：小中高】

県内で行われる国際イベント（スポーツ大会を含む）等における外国人選手との交流や、ALTや留学生等との料理教室の実施など、子どもたちが英語を「もっと話せるようになりたい」と思える機会を創出する。

5 「グローバル三重教育プラン」構成取組 一覧表

資料

	就学前・小学校	中学校	高等学校	大学・社会人
主体性	チャレンジ精神・目的意識の向上			
	専門高校生による小中学生体験チャレンジ講座			経営人材育成ネットワーク支援
	志の育成			
	中学生からの提案・発信		スーパーグローバルハイスクール (SGH)	高校生の留学の促進
	課題解決力の向上			
	ICTを活用した創造的な学びの実践			
	専門的知識・技術の習得			
			みえスーパーサイエンスハイスクール (Mie SSH)	農林水産業現場での大学生等の就労体験の促進
			みえスーパープロフェッショナルハイスクール (Mie SPH)	
	共育力	発信型の郷土教育 (日本人・三重県人としてのアイデンティティー)		
郷土三重を英語で発信! ～ワン・ペーパー・コンテスト～				
異文化理解・多文化共生の促進				
			外国人の多い職場との交流の促進	
将来を担う若者同士のつながり				
			みえ未来人(みらいびと) 育成塾	
語学力	コミュニケーション力の向上			
	効果的な教材を活用した教育活動の実施			
	英語指導モデルの構築 (小学校からの英語教育の充実)			
	小中学校英語教育モデルの構築		高等学校英語教育モデルの構築	
	ネットコンテンツの授業活用			
	教員の英語運用力・専門性の向上			
	小学校における英語教育指導体制の充実	中学校・高等学校における英語教育指導体制の充実		
	英語使用環境の創出・拡大			
	外国人住民・留学生等と三重の子どもたちとの教育交流			
	英語キャンプの実施			
英語人口の裾野拡大				
英語インセンティブ拡大プログラム				